

会 議 録

会議の名称	令和6年度 第7回小牧市市民活動促進委員会				
開催日時	令和7年3月27日（木）午前10時から11時30分まで				
開催場所	小牧市役所本庁舎 402会議室				
出席者	【委員】 秦野委員長、三島副委員長、戸成委員、竹中委員、伊藤委員、西村委員、鈴木委員、増子委員、浅井委員 【事務局】 倉知課長、山中係長、溝畑、坂東				
傍聴の可否	■可 □否	傍聴定員	5名	傍聴人数	1名
会議次第	1 開会 2 議題 （1）令和6年度市民活動推進事業実績報告について （2）令和7年度市民活動推進事業計画について 3 その他				
問合せ先	小牧市健康生きがい支え合い推進部支え合い協働推進課市民協働係				
会 議 内 容					
1 開会 2 議題 （1）令和6年度市民活動推進事業実績報告について ※資料に基づき事務局より説明 （三島副委員長） ボランティアLINEに登録している人の属性や活動の傾向と、未来ビルダーズの参加者からどんな話しがあったか教えてください。 （事務局） ボランティアLINEは学生や若年層が多い。ボランティア証明書を求める学生も多かった。空いた時間にボランティアができるのは使い勝手がよいようだ。団体からのボランティアの募集が少ないのでこちらから働きかけをしていく。 未来ビルダーズも若い方や現役世代の20代や40代がみられた。課題を抱える当事者がコミュニティづくりをしたいと思っていたり、何かしら関わりを持てたらという方の半々くらいだった。団体の立ち上げまで伴走できたらと思っている。 （西村委員） ボランティア体験会を開くにあたって準備が大変だが参加人数が少なく残念に思う。 （事務局） 去年は52名参加あった。原因として開催時期もあったと思う。去年は8月に、今年は10月に開催しており、去年は学生が夏休みで参加が多かったが、今年はそれが					

減った。来年度は夏にして、活動時間や場所を検討したい。

（伊藤委員）

市民と行政のテーマ別意見交換会が中止だった。応募のあったテーマがすでに行っているものだったとしても実施してみてもよいと思うし、テーマが出てこないということなので来年度はどのように実施するのか。

（事務局）

この取り組みは愛知県くらいしかやっていないよい取り組み。来年度は形を少し変えたり、働きかけを強めたりして行っていきたい。

（秦野委員長）

実務者会議も年数経ってきた。感じている課題や新たな展開について、何かあるか。

（事務局）

実務者は係長級がほとんど。予算を考える立場で協働を考えることが多い。現所属でできなくても異動先で発揮できるものと思う。最近地域協議会のパートナーについても実務者会議から何人か出しており、地域のことも経験して業務に生かしてもらいたいと考えている。

（秦野委員長）

行政提案が少ない。課と課にまたがる課題をどう解決するかというところでも協働が必要ではないかと思っている。そのような視点でも見直しを検討していただけたらと思う。

（2）令和7年度市民活動推進事業計画について

※資料に基づき事務局より説明

（増子委員）

市民討議会開催した結果と来年度の市民討議会はつながっているのか

（事務局）

直接的なつながりはない。毎年討議テーマも変えている。参加者にはワクティブの紹介をするなど何かをやりたいときにさらなる一步を踏み出せるようにしている。

（鈴木委員）

協働提案事業が減っていることもあって前倒ししたと思うが、これを知らない団体も多い。ワクティブで知る人が大半だと思うが。

（事務局）

団体向けのものなのでワクティブを通じて団体さんにお知らせすることが中心。提案の流れのポップも作成した。

（鈴木委員）

行政と一緒にやってよかったこともあるし、逆に制約もあると思う。

（事務局）

市とともに実施するとなると審査もしてもらうために書類を作っ人に見てもらふような準備が必要となる。それについてどう思われるかということは団体さんそれぞれあると思う。

（三島副委員長）

事業の実施を責任もってやってもらうとなると成熟した団体さんが求められると思う

が、他の自治体では協働に向かってこれから育っていく団体に対しては、ニーズ調査を市と協働で行って意見交換する仕組みをもっているところもある。

（秦野委員長）

協働の審査会の前に報告会があるが、多くの団体さんにも聞いてもらって、やってみたい団体には協働相談もできるような流れがあってもよいのではないかな。

（戸成委員）

職員研修は新入職員には基礎的な研修を行っていて、実務者会議研修は行政提案に影響してくると思う。提案が少ないこともあるので、どのような点を変えていくかなど改善の検討をしているか。

（事務局）

協働の分野の気づきがあったという実務者もいた。気づきを深堀りしていけたらと思う。新入職員と実務者の間の職員向けにも人事と研修を考えていこうと動いている。

（三島副委員長）

地域協議会でのことを実務者会議で共有する機会があるのか。

（事務局）

実務者会議でのフィードバックまでは至っていない。意見を回収していけたらと思う。

（浅井委員）

実務者は毎年どのくらい入れ替わりがあるか。どう選出するのか。

（事務局）

入れ替わりははっきり出せないが、部から出してもらっている。

（竹中委員）

ボランティアチャレンジ事業は非常におもしろい取り組みと思う。金銭的インセンティブにより今まで関心のなかった人が動き出すので、しっかりそこをキャッチしてもらいたい。今年度参加者92名は重複があるかと思うが、実際何人くらいかわかるか。

（事務局）

そこまで重複は60～80人くらいではないかと思う。

（竹中委員）

登録者で動いていない人が動くかもしれない。潜在層へのアプローチを考えてほしい。動いた人はリピートしてもらえように働きかけをしていただけたらよいと思う。

（伊藤委員）

ボランティアマッチングデイの受け入れ団体の負担が大きかったということだが、同じような団体さんがやってくれているようで、団体からボラマチのニーズはあるのか。団体登録、利用登録も少ないが、団体の状況はどうか。新しい団体が出ているのか、市民に参加してもらいたいと思っているのか。

（事務局）

団体の設立は減っている。ボランティアの定着率も課題。できれば仲間を作って団体を作ってもらいたいと思っている。例えば中心市街地活性化事業では団体に属さない個人が参加してきている状況。そこをどのようにつないでいくかが課題かと思う。活

動したい方は一定数いるのでステップをゆるやかにしてつないでいくことが必要だと思っている。

（伊藤委員）

まちづくりに寄与するのが市民活動団体だけというわけではなくなっている。

（事務局）

個人の方は市民活動をしているつもりで参加していないと思う。同じキーワードでつないでいくことも必要だと思う。

（西村委員）

ボランティアの個人情報はどうのように得ているか。

（事務局）

活動したい人には連絡先をもらっている。ワクティブが間に入って団体さんをつないでいる。

（西村委員）

ボランティアセンターに登録している団体がワクティブにも登録するメリットがあるか。

（事務局）

例えば福祉施設から依頼があつて団体さんをマッチングした事例もある。団体が固定化しているので多くの団体に活用してもらいたい。

（浅井委員）

協働提案事業のヒアリングでは、公共性や発展性がみられにくい団体や、協働の意義が発揮されづらい事業もあったがルールを変えたりするか。

（事務局）

ルールの変更はまだ考えていないが内容のすり合わせをしっかりと行っていく。全般にみられるようであればルールの見直しもしていく必要があると思う。

（三島副委員長）

ルールブックは内容的なところは根本が書いてあるので修正は必要ないと思うが、言葉が古かったりするので伝え方の工夫をしてもよいのでは。

（秦野委員長）

ルールブックは時代に応じて見直していくものということで作ったと思うので、考えてもよいと思う。

さきほど西村委員がおっしゃったことで、団体の登録先としていろいろある。課題となっているのは事業の発信の仕方。他の市民にどう目に留まるかということだが一団体の力ではなかなか届かないというところもある。いろいろな枠を取り払って実施するのが協働推進なので、いろいろな部署の協働をいろいろなところで発信できるとよいと思う。

以上